

白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊の会

b y a k k o t a i n o k a i

会誌 7号

Vol.7 2017年4月

白虎隊の「義」後世に



目 次

本年度の事業をふり返って	飯沼一元	2
白虎隊士生家跡碑除幕式	森川敬寿	3
白虎隊バスツアーと懇親会	森川敬樹	4
寄稿：鶴ヶ城開城の日に	星絵里子	5-6
恩愛の碑建立の歩み	吉井克也	7
恩愛の碑除幕式	吉井克也	8

會

発行者 白虎隊の会

恩愛の碑祝賀会	吉井克也	9
恩愛の碑除幕式に参加して	安司弘子	10
下関支部だより	吉井克也	11
東京支部だより	渡部麗	12
本部便り	飯沼一元	13
会員名簿		14-15
編集後記	飯沼一元	16

本年度の事業をふり返つて

事務局長 飯沼一元

本会の目的は「白虎隊の“義”」を後世に伝えることです。来年は戊辰150年です。白虎隊の知名度は落ちてはいませんが、「白虎隊とは何だったのか?」については「飯盛山から鶴ヶ城を見て、落城と誤認して自刃した」という「悲劇物語」としか伝わっていません。

会津藩が降伏し、鶴ヶ城を開城したのは、白虎隊自刃の1か月後です。

広辞苑で白虎隊を引くと、「19人の少年は城陥ると即断して城外の飯盛山で自刃した。」となっています。

赤穂浪士は目的を遂げ、幕府が切腹を命じそれに肅々と従う武士道でした。白虎隊士は城が落ちたという早とちり、若氣の至りが原因で犬死にしただけ。

自刃した白虎隊士の中で唯一生き残った飯沼貞吉は、『白虎隊顛末記』に自刃の理由を「武士の本分を明らかにする」ためとしつかり書きとめていました。

自刃は武士に許された“意思表示”的儀式です。筆者は、天皇に至誠を尽くした会津藩が朝敵とされた理不尽に対する抗議を集団自刃という形で表現したものと考えています。これは「な

らぬことはならぬ」の会津魂そのものです。

昨年から、若松市内に「白虎隊士生家跡碑」を設置する事業を開始しました。これは福島県の地域創生総合支援事業（サポート事業）として助成金を得て実施しています。現在、当時の会津藩土屋敷の痕跡は殆ど残っていません。鶴城北出丸近くに、西郷邸跡と内藤邸跡がありますが、白虎隊士生家跡はありません。

会津戊辰戦争において、召集令状を受けた白虎隊士が出陣し、飯盛山で自刃するまでは僅か一日の出来事でした。白虎隊士はどこでどのよう召集されたのか、どんな気持ちで出陣したのか?

また、白虎隊出陣劇を実演することで、彼らの真っ直ぐな気持ちを再現し、白虎隊の辿った道のバスツアーを企画し、召集、出陣、戦闘、自刃に至る「白虎隊の一日」を体験していただき、ならばに「ならぬことはならぬ」の会津魂・白虎隊の“義”を後世に伝えることを目的としました。また、「“義”に生きた白虎隊」という漫画冊子をツアーパートナーに配布しました。

また、下関支部では、6年越しの企画となつた長州藩士樋崎頼三と会津藩士飯沼貞吉の「恩愛の碑」の設置・序幕に漕ぎ付けました。全国から400名の浄財570万円を集めての一大事業でした。関係者のご尽力に心より感謝致します。

以下のページに内容を紹介します。



井深茂太郎生家跡に設置した説明版



本年は、昨年に続いて、白虎隊士の生家跡に石碑を設置しました。石材は天然の磐梯山です。

白虎隊土生家跡碑除幕式

会津支部
森川敬寿

に津川家の養子になりました。

昨年から始めた白虎隊士生家跡碑の設置事業が
本年も準備が整い九月二十二日除幕式が行われま
した。

当日は辰頃から降り始めた雨が、式の開始時には本降りとなり、慶応4年白虎隊士が戸ノ口原へ出陣した日を思い起させる除幕式となりました。式は始めて井深茂太郎生家跡に当る現東邦銀行東邦寮の敷地で行う事となり、東邦銀行会津支店執行役員支店長木城清市様、同行石田信洋副支店長、白虎隊の会飯沼一元事務局長始め白虎隊の会員、東邦銀行の社員の皆様が大勢参列して下さり盛大な除幕式となりました。

尚、ソニー創業者の一人、井深大、井深家より石山家に養子に入り茂太郎と一緒に飯盛山上に眠る石山虎之助、明治学院総理井深梶之助、ハンセン病の看護に一生を捧げた井深八重は井深茂太郎の一族である。

引き続き、津川喜代美生家（養家）跡である現福島県立若松商業高等学校に場所を移して除幕式を行いました。同校校長深津文雄様、東邦銀行会津支店執行役員支店長木城清市様、衆議院議員小熊慎二様、同じく菅家一郎様、会津若松市長室井照平様、市議会議長日黒章三郎様始め白虎隊の会員の皆様、そして地元の方々ばかりか東京、横浜、新潟、千葉など遠方から一般の方々にも参列していただきました。

津川喜代美は高橋誠八の三男で一〇歳になる前



福島民報記事 2016年9月23日

事だ」と言うセリフが印象に残りました

本降りの雨の中、傘をさして東邦銀行の社員の方々も最後まで参加して頂き、また、バスツアーバスが出発するバスが校門を出るまで見送つて下さった若松商業高等学校の深津校長先生始め参加して下さった皆様に深く感謝いたします。

同 予告記事 2016年9月1日

白虎隊バスツアー及び懇親会 — 会津支部 森川敬寿

本降りの雨の中、白虎隊ツアーの参加者二十八人を乗せてバスは出発しました。コースは篠田儀三郎生家跡、飯沼貞吉生家跡、井深茂太郎生家跡、鶴ヶ城、白虎士中二番隊が出陣して行つた滝沢本陣、強清水（こわしみず）、白虎隊

戦闘の地跡、白虎隊士が身を隠した新四郎堀、白虎隊士が二十二日夜露営した菰土山（こもつちやま）、戸ノ口原古戦場跡、白虎隊士の墓のある飯盛山、白虎隊士が潜つた飯盛山洞門、白虎隊士自刃の地そして解散というスケジュールを予定していました。

バスの車中や各場所では昨年に引き続き会津

史跡研究の第一人者石田明夫氏から耳新しい話や懇切丁寧な説明を聞き、歴史好きな皆様がより一層歴史好きになつた様子でした。

今回のツアーには昨年と違い、会員以外の方の参加もあり、京都、岩手、仙台、東京、新潟など県外からも大勢参加して頂きました。

只、残念なことに飯盛山へ帰つて来た時には夕闇が迫り雨足も強くなつてきた事もあり、白

虎隊士の自刃の地や墓前に参ることはやむを得ず断念いたしました。

夕方六時よりねぼけ茶屋にて懇親会を行いましたが、現在ねぼけ茶屋のあるこの場所は明治

十五年より四十四年まで飯沼家が住んでいた場所です。ここには貞吉の両親一正とふみ、兄源八、妹ひろ、弟関弥、叔母が住んでいましたが弟関弥はここより約四・四キロ離れた永和小学校の校長として通勤していました。飯沼家には縁のある場所です。

今回は紙芝居で会津魂を伝え聞かせている弁士星絵里子さんに白虎隊の活躍を見せていただきました。私たちも太鼓や鍋を叩いて大砲や鉄砲の擬音を出し、弁士星さんの熱弁に拍手喝采を送りました。

また、二名の方が白虎隊の会へ新規入会されました。今後、いろいろな行事にご参加いただることを期待しています。

来年は戊辰百五〇年に当たり、会津祭りも盛大なものになると思いますが白虎隊の会の中からも会津藩士の子孫として藩主容保公護衛の隊として参加協力することになつています。

またその折に皆様にお会い出来ることを楽しみにしております。

案内説明は会津の歴史に精通している前出の石田明夫氏でした。

来年もまた十一月に親子向けツアーを計画しています。

コースは母成峰会津藩塹壕跡のある戦場跡、会津藩初代藩主保科正之公の墓所である土津神社、会津藩の支城である猪苗代城址、戸ノ口原古戦場跡、飯盛山洞門、白虎隊士自刃の場、篠田儀三郎、津川喜代美、飯沼貞吉各生家跡を巡りました。



寝ぼけ茶屋での懇親会 後列右から4人目が筆者
2016年9月22日 会津若松市宮町4-6

鶴ヶ城 開城の日に — 会津こころ亭 弁士 星絵里子

向こうに新政府軍が見えるような気がしたのです。

二〇一六年九月二十二日・

この日は私にとって運命的な日でした。鶴ヶ城開城の日に飯沼貞吉の直系のお孫さんである一元さんと対面し、紙芝居上演を観ていたたくことが出来た・・・

私の人生の中でこのような事が起るとは想像もしておりませんでした。

私の出来ることで震災復興の役に立ちたい。
私は紙芝居に全力投入し、名指しでリピーターが来るようになりました。



新島八重物語で唐人凧上げを演じる筆者

『ああ！これが歴史か！』

私は、『歴史は、実際に生きていた人達の思いで刻まれたドラマティックなストーリーなのだ。』と悟ったのです。



新島八重物語を演じる筆者

私は大学一年、高校2年、小学5年の三人の子の母です。初めて子を宿したとき、神戸連続児童殺傷事件があり、子供を産み育てるということは、とても責任の大きい大事業と感じ子供達の教育に奮闘してきました。会津には震災の一年前に千葉から移り住み、あの震災を経験しました。東日本大震災から人生が変わった人は多いと聞きます。私もその一人です。

2012年春、鶴ヶ城で紙芝居に出会います。それは、風評被害が深刻な会津へお客様を呼び戻す役目でありました。私は大学の専攻が演劇で、既にリピーターを生み出す体験型のエンターテイメントの仕組みを経験済みでした。

お城には歴史好きなお客様が沢山いらっしゃるけれど、そうではない人も多くいらっしゃいます。

私の紙芝居で、歴史に目覚める人が増えることを願い、場を重ねました。

私は会津藩士の無念の思いをお伝えする役目と泣き叫び、その手応えを感じながら3年でした。

で鶴ヶ城の紙芝居は終了。

多くの方のご支援のもとに、会津こころ亭
紙芝居弁士として、今に至っています。



しかし、ここまで道のりは簡単ではありませんでした。私は重度の障害者と診断されました。これが原因で子供と引き離されてしまうことになります。

泣いてばかりの日々もありましたが、思ひもよらない方々との出会いもありました。一元さんとの出会いもそうです。

私は紙芝居以外でも、何故か白虎隊を熱く語ってしまいます。彼らは自分の命をどう使うかわかつていた。

見間違えたなんて、そんな浅はかな彼らではない。

命、生き方、限られた人生の中での自分の人生を見つめ直す事。白虎隊は単なるお涙頂戴のストーリーではなく『生きる』とは何か?を考えさせるものではないかと思うのです。

現在、制作途中の紙芝居『白虎隊物語』一

元さんに不明な部分を伺い完成させようと思っています。後半には蘇生した貞吉の苦悩長州でもし、末裔の方のお話を伺う機会があるな

らば、これに越したことはないと考えています。御本人が一番伝えたかった事をお話しでいると思うからです。

白虎隊自刃の紙芝居も「城が燃えている」と見違えての内容でしたので、書き換えました。未だ、市内を循環する観光バスの案内も燃えていた説のままであることにビックリしました。

昨年ボランティアガイド研修を受けて、その理由がなんとなくわかつてきました。



制作中の白虎隊物語

一緒に眠りたいという願いもなかなか叶わずお墓も少し離れた所に建っています。

以下12ページに続く

「恩愛の碑」建立の歩み

恩愛の碑実行委員会副会長 吉井克也

一 はじめに

白虎隊士飯沼貞吉直系の孫飯沼一元氏が祖父の養育の足跡を確定するため、二度目の山口県美祢市東厚保小杉（権崎屋敷跡）を訪問されたのは、平成二十二年三月二十一日のことでした。この日、現地でも美祢市立図書館で行われた地元関係の皆様との歴史座談会でも「貞吉ゆかりの記念碑を創りたい」とのお話があり、これが「恩愛の碑」建立の出発点になりました。

二 白虎隊下関支部の発足以後の活動

やがて平成二十二年十月十九日に白虎隊の会下関支部を立ち上げ、次の様な活動を始めました。

- ① 会津間諜神戸岩蔵墓整備と慰靈
- ② 東北大震災への義援金（大熊町等）
- ③ 長府万骨塔への山川健次郎靈石安置への支援と協力
- ④ 長府万骨塔慰靈祭に参加（白虎隊十九士と広沢安任等の靈石）
- ⑤ 平成二十四年十月十九日 下関支部が「飯沼貞吉の回生」「あづさ弓の如く」出版記念会を開催。その前に飯

沼一元氏を美祢にご案内し、美祢市教育長をはじめ市役所幹部・市民有志と懇談し、再度飯沼一元氏から貞吉ゆかりの記念碑を建立したい旨を述べて頂く。このことを美祢市も市民有志も前向きに受け止める。

⑥

下関支部は、二種類の貞吉本を県内全ての公立図書館や美祢市・下関市の小中学校に寄付するなど、「高見フサロ伝」の周知に一層務める。

⑦

平成二十五年八月からKRY山口放送TV「熱血テレビ」で四回に渡って権崎頼三と飯沼貞吉の特集をくむ。また、平成二十六年九月二十八日には「会津白虎隊の残影～思いは時を超えて～」がNNNドキュメント十四で放映される。

- ⑧ 二種の貞吉本出版と拡販、新聞・テレビの報道、講演会や卓話の啓発活動が進み、記念碑建立の見通しが次第に見えてくる。
- ⑨ 平成二十七年二月十一日、京都で、吉井支部長が権崎頼三直系の権崎健志氏と面会し、記念碑建立の了解を得る。ここに記念碑建立に向けた環境が全て整う。
- ⑩ 平成二十七年二月十八日から二回の準備

会を行い、建立実行委員会の立ち上げの準備を行う。

⑪

同年五月から一〇回に及ぶ実行委員会を開催し、ついに平成二十八年十月十五日「恩愛の碑」建立に至る。

三 おわりに

「恩愛の碑」建立に際しては、権崎家・飯沼家・高見家から、過分のご寄付を賜りました。そして、全国約三百八十名の方々から浄財を頂き、立派な記念碑を建立することが出来ました。多くの方々からのご支援は「会津・長州の和解」を願う方々が多数おられるとの証であります。

この恩愛の碑は「長州藩士権崎頼三と白虎隊士飯沼貞吉との間に交わされた怨讐を超えた人間愛」を後世に伝えると共に、会津・長州の和解と友好にむけて、大きな力を發揮してくれるにちがいありません。

恩愛の碑除幕式・祝賀会

下関支部長 吉井克也

平成二十八年十月十五日、雲一つない紺碧の青空の下で、全国各地から一一〇名を超える方々のご参加を頂き、厳かに「恩愛の碑」除幕式が始まりました。

吉井実行委員会副会長による主催者挨拶（高見家代表も兼ねる）に続き、ご来賓を代表して西岡美祢市長様、続いて、樋崎家代表として頼三曾孫の松葉玲子様、飯沼家を代表して飯沼一元様からの挨拶をいただきました。

松葉様は『この恩愛の碑の裏に「世界平和』の文字が刻んであり、とても驚いたが、我が家意を得たと嬉しかった。頼三の残したものがあ

恩愛の碑を通して、会津・長州の和解と友好だけでなく、世界平和を実現する力になることを切に願います。』また、飯沼一元様は『今でも会津では、長州を仇だと思っている人は多い。だが、我々飯沼家は、祖父貞吉がこの地で養育されなかつたら、この世に生まれておりませんでした。ここに歴史を百五十年遡つて樋崎家、高見家、小杉の皆様にお礼申し上げます。この恩愛の碑が会津・長州のわだかまりの解消に繋がるとともに、世界平和に資するならば、これに勝る喜びはありません。』と述べられました。



この二本の若木の成長とともに、会津・長州間の関係改善が進むことを参例者共々願いながら、除幕式を終えました



恩愛の碑建立の趣意

「今にも小雪の舞いそうな寒い日じやつた。・・・」で始まる高見フサ口伝によれば、会津戦争に参戦した長州藩士橋崎頼三は、戦争が終わったおよそ二ヶ月の後、飯盛山で自刃したものの蘇生した白虎隊士飯沼貞吉を連れて小杉に凱旋します。その祝いの席で、貞吉は再び自刃騒動を起こしますが、頼三是貞吉を書斎へ連れて行き論します。

「ええか貞、いつまでも会津・長州ちゅうて喧嘩をしちょう時じやないでよ』『今からは日本人が心を一つにして、この國を強くて豊かな国にせんにやいげんのじや』『その中心はお前たち若者じや』『貞、命を粗末にしてはならぬ』『貞、勉強せい。お前の学費はわしが出す。安心して勉強せえよ』・・・。

頼三の論じを黙つて聞いていた貞さあは翌日から殿様の書斎を借りて、まるで生まれ変わったように勉強に励んだそうじや』

会津若松鶴ヶ城開城の直後、会津・長州の間に憎悪の炎が燃え盛つている時期に、美祢市東厚保の小杉では、このような怨讐を越えた人間愛の物語が、密かに営まれていたのです。

その二年後、頼三は政府の命を受け新しい兵学を学ぶためフランスに留学しますが志半ばにして、パリで客死します。一方、頼三やフサ・小杉の人々の温情により、絶望の淵から回生した貞吉は、静岡学問所や東京の電信修技場で電信技術を学び、やがて通信網の構築に携わり、我が国の近代化に多大な貢献をするのです。

間もなく戊辰戦争と明治百五十年の節目を迎える私たちの前には、今なお「会津・長州間のわだかまり」をはじめ国内外において、過去の戦争に因る深刻な問題が現存してしまいます。これから時代を生きる私たちは、頼三と貞吉の人間愛に学び、怨讐を乗り越え未来を拓いていかなければなりません。全国から寄せられた浄財をもとに建立されたこの恩愛の碑が、一人でも多くの方々の「道標」になることを願つてやみません。

平成二十八年十月十五日

長州藩士橋崎頼三 白虎隊士飯沼貞吉
恩愛の碑 建立実行委員会

除幕式の後、美祢市グランドホテルを会場に、一〇〇名近くのご出席を得て祝賀会を盛大に開催することが出来ました。

ご来賓の皆様のユーモアと示唆に富むスピーチ、時に会津・長州の溝の深さを指摘され思わずドキッとする場面もありましたが、大変和やかで充実した祝賀会になりました。松葉玲子様によるシャンソン、

村田敬二会員による詩吟「あづさ」の如く下関のソードダンサーチームによる「白虎隊の剣舞」等も会場を大いに盛り上げてください、これから会津・長州の関係改善にむけてよりよいスタートを切ることができました。

この度の恩愛の碑建立に当たり、橋崎家、飯沼家、高見家からは過分なご支援を賜りました。また、地元美祢市・下関市はもとより県下・全国各地からも多大なるご支援を賜りました。除幕式と祝賀会にも、遠く宮城県や福島県・栃木県・東京都を始め各地から多数ご臨席を賜り、祝福と激励を頂きました。皆様に心から感謝申し上げます。下関支部は今後とも恩愛の碑建立実行委員会と手を携えながら、「頼三と貞吉の怨讐を超えた人間愛の物語」を広く伝えて参ります。



恩愛の碑祝賀会の様子。 2016/10/15 於美祢グランドホテル

「恩愛の碑」除幕式に参加して

安司弘子

2016年10月14日。翌日の午前中に美祢市で行われる「恩愛の碑」除幕式に参列のため羽田空港に到着。式の主賓でご夫人を伴った飯沼さん三兄弟を出発ロビーで見つけ緊張が解けた。二男で仙台市にお住いの一字さんご夫妻とは初めてのお目文字だった。

ホツとしたのもつかの間、ハプニングが起きた。しばらく待たされた挙句、搭乗予定便が欠航。予期しないプロローグとなつた道中は、男性陣が煩雑な諸事に動いて下さり新幹線での長旅に変更。それは又と無い飯沼家の方々、とりわけ奥様達との懇談の時間に転じた。

大幅な遅延となつたが、現地では一昨年白河市にいらっしゃった、吉井会長以下「白虎隊の会」下関支部の皆さんのが懇親会を設定してお待ち下さっていた。

明日の式典のもう一人の主賓で樋崎頼三のご令孫・松葉玲子さんとお嬢さん、福岡支部長の柏木隆之介ご夫妻、長崎支部長の工藤新一さん、樋崎頼三と飯沼貞吉の恩愛を描いた『あずさ弓の如く』の著者で、美祢市出身の漫画家・苑場凌こと渋谷巧さん達との宴が始まった。

工藤さんは古い歴史仲間で、渋谷さんには白河にお出でいただいたこともある。会津若松市觀光大使を務め、山川健次郎銅像建立に尽力さ

れ、朝河貫一顕彰会に所属するなど福島県にご縁の深い柏木さんは誰をも笑顔に誘うムードメー

ーカー。白河が生んだ芥川賞作家中山義秀についても造詣が深く話が弾み、後日義秀の著書を送つていただき。松葉さんとは2011年9月京都府庁旧本館の一室、飯沼一元さんとの初対面の場で同席させていただいた。ここには幕末、京都守護職屋敷があつた。中庭には「容保桜」と名付けた珍しい品種の山桜が威容を誇つてている。



☆☆☆145年の時を超えて恩愛の絆を確認☆☆☆
京都府庁本館で初対面の飯沼一元さんと松葉玲子さん

立地美祢市小杉の樋崎頼三屋敷跡には2010年3月20日に訪れていた。脳裏に記憶された素朴な風景が目の前に現れた。懐かしく感慨深い。



2010年訪問時の小杉集落と吉井さん



2010年訪問時の小杉集落と吉井さん

晴れやかな秋空の下、多勢の参列者に見守られ「恩愛の碑」が除幕された。澄み渡る青空の眩さにも祝福のメッセージを感じる。

会津と長州の恩讐を乗り越え、この碑の建立に尽力された方々の気もちを想うと胸が熱くなつた。碑の裏面には「祈世界平和」が刻んであり、歴史的な場面を共有できることに感謝した。憎しみの連鎖は何も生み出さない。むろん歴史に目をつぶつたりフィルターをかけてはいけない。真摯に互いの立場に想いを馳せ、人間愛で結ばれたいと強く願つた。

——感動の余韻に包まれながら、私は新たな出会いと再会が待つ萩市にむかつた。

下関支部だより

下関支部の本年度は、長年の課題であった「長

州藩士樋崎頼三・白虎隊士飯沼貞吉恩愛の碑」の建立に明け暮れた一年でした。

恩愛の碑については、別ページに掲載しています。

活動報告

① 四月十四日～十七日高杉晋作百五十回忌記念行事『晋作の夢』に協賛。

東行庵において高杉晋作が生前に書き残した墓誌の碑を建立し、京都から司太夫・葵太夫を招き、墓前で舞を奉納する。

また晋作縁の地ウォーキー、講演会、交流会などが各地で開催され、この期間下関は晋作一色に染まつた。

② 六月十三日 会津間諜神戸岩蔵墓清掃と下関支部役員会の開催

③ 七月二十五日 下関応援団の主催「福島県伊達市の子供たちとの交流」に参加。

伊達市長様ご一行と「高見フサロ伝」や「靈山神社と西郷頼母」が話題になり、大いに盛り上がった。

④ 八月二日 神戸岩蔵墓参・役員会

⑤ 十月十四日 恩愛の記念碑除幕前日準備・前夜祭

下関支部長 吉井克也

東行忌

⑥ 十月十五日 恩愛の碑除幕式・祝賀会

⑦ 平成二十九年一月三十一日 下関支部役員会

⑧ 二月二十六日 下関支部総会

講演等啓発活動

今年も、各団体から講演や卓話の依頼があり「会津・長州の友好にむけて」を主なテーマに啓発活動を行いました。

① 八月六日 美祢市民大学歴史講座講話

② 十月十三日 下関市女性管理職真遊の会研修会講演（約100名）

③ 十一月十日 東亜大学歴史の会卓話

④ 十一月十一日 道市・轡井いきいきサロン講和

⑤ 十二月十五日 木屋川中学校立志式事前研修会講話

⑥ 平成二十九年一月二十二日 下関市校長・園長フォローアップ研修会講演（約100名）

⑦ 二月十五日 教職員退職互助会下関地区集会講演（約300人）

⑧ 二月二十五日 吉田緑こども園教育研修会（約80名）



平成二十二年十月十九日に、白虎隊の会下関支部を立ち上げて、七年目を迎えました。戊辰戦争一五〇年、明治維新一五〇年を前に、「恩愛の碑」が建立できたことを嬉しく思っています。

今年度は、「長州の中の会津・白河」について全国に発信していく予定です。

今後とも、ご支援を賜りますようお願い申しあげます。

→ p.6 「鶴ヶ城開城の日に」からの続き

しかし、年二回飯盛山での慰靈祭の時、日

新館の流れをくむ会津高校の白虎隊士達と同じ年齢の子達が剣舞を奉納。

吟うのは貞吉。十九名が舞う。

あれほど、一緒に死ねれば良かった。一緒に眠りたかった。と、願った貞吉の思いが年二回、あの瞬間だけ叶うのです。

私は戦争を語る事は平和の大切さを意識する事と思っています。

貞吉が生かされた理由を一元さんが受け取り勢力的に活動され、また、末裔の方々の活動にも頭が下がります。

私が鶴ヶ城開城の日に白虎隊自刃のシーンを一元さんやお兄様ご夫妻、石田先生、紙芝居独立スタートの背中を押してくださった皆川さんのお父様である皆川先生、沢山の会の方々に見ていただけたのは、偶然ではないのだ感じています。

このような素晴らしい機会に繋げてくださった星野さん、森川さん、そして、一元さん。本当に感謝申し上げます。

連絡先 090-7726-3546

東京支部だより

東京支部長 渡部麗

2017年の新春、レキシズルに会津松平十四代の殿をお迎えし、「幕末パズル

TERAKOYA」を開催しました。来年は戊辰戦

虎隊について、私なりの発信を続けていきた
いと思っております。

「もし徳川幕府が滅ばずに、江戸の世が続いていたらどうなつたか」というトピックを頂き、パズルのように戸幕末史を再構築する試みをプレゼンテーションしました。歴史の「i-f」

は基本タブーとされていますが、あえてトライしてみるのも面白いかと思い実施。

まずイントロダクションで、「桜田門外の変のとき、もし天気が晴れていたら」から入り、井伊直弼が暗殺されず、幕権がどんどん強化され、徳川の世が続くシナリオをレキシズルで描きました。

思いの他、お客様には好評で、こういう歴史の切り口もあっていいのではないかと感じました。白虎隊の会はあくまで事実を掘り下げ、的確な発信を心掛けるのですが、白虎隊をもっと知つてもらうために実験的な、「ななめ上のコンテンツ」があつても面白いかも知れません。引き続き、会津の幕末史や白



レキシズル。

1866 ※パズル完成

パックス・ トクガワーナ

- 1月 江戸城で新年会
- 6月 長州藩改易
- 8月 将軍家茂死去
- 12月 慶喜将軍就任
公武合体成功

本部だより

1.会員

2016年度の新入会員は7名（昨年比+1）でした。2017年3月末現在、名簿登録会員数は140名（-3名）となった。内訳は特別会員27（+2）、一般98（-7）、賛助2（-2）、休会7（+3）、物故6（+1）名である。休会・物故を除く会員数は127名で、地域別内訳は会津35（-5）、東京37（0）、下関16（-2）、京都9（-7）、長崎7（-2）、仙台7（-2）、その他19名である。なお、会員名簿上、会費3年末納者は休会と表示した。また、4年以上会費未納者は退会とし、自己申請の退会者とともに6名を名簿から削除した。

2.活動

主な活動実績は表に示すとおりです。青字は、本文に記事が紹介されています。

年月日	主な活動（予告を含む）
2017年4年16日（予定）	会報第7号発行
2017年4年2日（予定）	年次総会（インターネットで）
2016年11月13日	白虎隊が辿った道バスツアー実施
2016年10月15日	山口県美祢市に「恩愛の碑」設置、序幕、祝賀会
2016年9月22日	白虎隊士生家跡石碑除幕並びに白虎隊ツアー実施
2016年8月11日	片岡愛之助の歴史検査番組で白虎隊が放映される。石田明夫氏出演
2016年6月24日	平成28年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）に 白虎隊士生家跡整備事業が採択される。
2016年5月28日	会津白虎隊の残映～思いは時を超えて～ 山口放送1時間番組
2016年4月25日	会津史談第90号p91に「飯沼貞吉長州滞在説の検証」が掲載される
2016年4月24日	春の飯盛山墓前祭参加（会津支部）
2016年4月16日	会報第6号発行
2016年4月2日	年次総会（インターネットで）

3.決算報告

白虎隊の会	貸借対照表		単位（円）	損益計算書		単位（円）	
資産の部	負債の部			収入の部	支出の部		
現金及び預金	492,887	未払金	79,740	会費	270,000	助成）事業費	794,058
未収入金	474,000	負債の部合計	79,740	寄付	180,000	会誌発行	79,740
		前期繰越残高	940,452	書籍代	78,800	広報費	40,000
		本期損益金	-53,305	会報名刺	7,500	説明版	133,380
		次期繰越残高	887,147	助成金	474,000	その他	16,427
資産の部合計	966,887	負債純資産合計	966,887			本期損益金	-53,305
会計監査	平成29年3月31日現在			合計	1,010,300		1,010,300

会計監査

平成28年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

平成29年3月31日 会計監査役 緑川 正和 印

4.2017年度の計画

新規会員獲得目標10名、総事業費は100万円を予定。

預金が少くなり、書籍販売も落ちているので、会費納入と寄付をお願いいたします。

1.会津若松市内に「白虎隊士生家跡」碑3基を設置。（助成事業を申請）

2.戊辰150年記念事業について検討・準備。

白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年（慶応4年）3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いました。

数え年16～17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、16名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで「会津の教え」を健気にも最後まで守り通しました。

「会津の教え」とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇国への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから144年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎え、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないかでしょうか？

私たちは白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画の3つを中心に会員自らの活動を原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同
文責 発起人代表 飯沼一元

《編集後記》

会津にとって、白虎隊は鶴ヶ城と双璧をなす宝でしょう。「悲劇の白虎隊」という「お涙頂戴物語」は会津の観光資源として、十分に機能してきました。しかし、白虎隊は「鶴ヶ城が落城したと早とりちりして死んだ」という落城誤認説がまかりと通るうちは本物の宝にはならないでしょう。

148年前の戊辰戦争で散った白虎隊士に学ぶものがあると信じ、白虎隊の会を立ち上げて6年。「武士の本分を明らかにする」ために自刃したという証言を大切にし、この輪を一人でも多くの人に広げたい。“義”に生きた白虎隊士を現代の若者に伝えたい。

会誌第7号を皆さんのが協力により、発行することができました。継続は力なりと自分を戒めながら、2年後に迫った戊辰150年を目指します。

2017年3月 飯沼記

♪白虎隊の会について♪

★入会は自由です。入会金は無料・年会費は三千円です。

5年分一括納入へのご協力を願いしています。

郵便振込先加入者名：白虎隊の会 口座記号番号00100-1-616556

【白虎隊の会】事務局

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654

発行責任者 事務局長 飯沼一元

ホームページ：<http://byakko1868.web.fc2.com/>

検索